

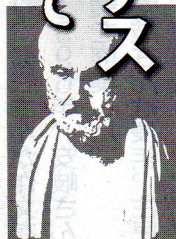
富山

安全・安心は
北陸ミートから!

テム対応 北陸ミート株式会社

工場 / 富山市金屋 2718 番 13

☎(076)443-7272 (代)

ヒポクラテス
を超えて

>9<

◆患者、家族が納得で
きる最期2012年春。滑川市
清水町にある吉見病院に
90代後半の患者が入院し
た。骨折して寝たきりにな
り、入院後は意思疎通
もできなくなった。「こういうものを本人
は望んでいます」。そう
言って家族が示したのは
日本尊厳死協会のリビン
グウィル(生前の意思、
LW)だった。病院理事
長の林義則さん(67)はか
つて循環器外科を担当。
何が何でも生かそうとす
る医療に疑問を持ち始め

「LWを尊重しよう」

ていた。

「LWを尊重しよう」。

そんな思いから、延命措
置に当たる高カロリーの
点滴「中心静脈栄養」は
施さないことにした。た
だ、死期を早めることが

患者の意思生かす現場

ないよう手足の皮膚の静
脈を使う「末梢点滴」
は行った。「我々医療側
としてこれだけはさせて
ほしい」と家族に言って
了解をもらったのだ。だから、13年夏に亡く
海外にはLWなどを法
すね」なつた時は「きれいな最
期だった」と思った。「み
なさんが納得して最期を
送ることができたので、
非常によかったですと思いま
す」「日本版ACPを
患者の意思をどう医療
に反映するのか。方法は
法制化以外にもあった。
11年の年明け。南半球
のオーストラリアは夏
だ。国立長寿医療研究セ
ンター(愛知県)で在宅
連携医療部長を務める三
浦久幸さん(54)は、視察
先のオースチン病院で見
た光景に目を見張った。
「全く差を付けられてい
る」「三浦さんの驚き。それ
は「ACP」と呼ばれる仕
組みに対してだった。終
末期に向けた「Advvan
ce(事前)」「Care(ケ
ア)」「Planning(計
画)」。

終末期医療について話す林義則さん

滑川市清水町の吉見病院で

「日本版ACPを
患者の意思をどう医療
に反映するのか。方法は
法制化以外にもあった。
11年の年明け。南半球
のオーストラリアは夏
だ。国立長寿医療研究セ
ンター(愛知県)で在宅
連携医療部長を務める三
浦久幸さん(54)は、視察
先のオースチン病院で見
た光景に目を見張った。
「全く差を付けられてい
る」「日本版ACPを
患者の意思をどう医療
に反映するのか。方法は
法制化以外にもあった。
11年の年明け。南半球
のオーストラリアは夏
だ。国立長寿医療研究セ
ンター(愛知県)で在宅
連携医療部長を務める三
浦久幸さん(54)は、視察
先のオースチン病院で見
た光景に目を見張った。
「全く差を付けられてい
る」